コミュニケーションペーパー（COMIPA）

おやま～る

2021年
4月

6 号

まちかど美術館企画「第15回まちづくりシンポジウム」

2/7 開催

2021年2月7日（日）、まちかど美術館企画「第15回まちづくりシンポジウム」が開催された。おやま～るは共催の立場でFacebookでのLive配信を行った。第１部は「市民が主役、生き生きと暮らせる田園環境都市小山　目指して」を題目として浅野小山市長の講演、第２部ではパネルディスカッション「持続可能なまちづくり　市民が主役　生き生きと暮らせる小山」として小山で活動する3人がパネラーとして登壇した。今回のシンポジウムは栃木県デジタル戦略室長の大森豊氏がファシリテーターとして分かりやすい有意義なセミナーとなった。

第1部「市民が主役、生き生きと暮らせる田園環境都市小山　目指して」

2020年7月に新しく小山市長となった浅野正富市長がコウノトリと共生する田園環境都市を目指すこれからの小山のまちづくり構想を語った。これを達成するにはSDGsの17の目標の実現が求められるとのことで、SDGsや定常社会について説明された。

第2部「持続可能なまちづくり　市民が主役　生き生きと暮らせる小山」

思川桜里親の会　大島　寛氏

思川桜の里親制度が始まって以来毎年里親になり、桜の植樹を続けている大島さんは、思川桜里親の会理事としての植樹の活動と想いを語った。里親になることは、市民活動に参加するきっかけでもあり、里親制が続く限り続けていきたい、そして思川桜の植樹でギネス記録を目指したいと抱負を述べた。

小山市渡良瀬遊水池エコツーリズムガイド協会　門馬　悠一氏

渡良瀬遊水池の魅力をその周辺にある資源と共に伝えた。エコツーリズムガイドはビジターと地域の自然・文化・歴史を繋ぐ仲介役であるとし、今後は他市町との連携を取りながら渡良瀬遊水池の魅力と価値を未来に繋げていきたいと目標を語った。

Sunフーズ株式会社　栗原　宏氏

「808 BREWERY」というクラフトビールのブランドを立ち上げ、醸造する工場を小山で建設中。4月には小山市の地域資源を活かしたクラフトビールを販売する。民間企業として小山のブランドを作り、思季彩館で808BREWERYイベントも開催するなど小山市を活性化させていくと抱負を語った。

まちかど美術館企画「第15回まちづくりシンポジウム」の様子

コラム　我逢人

ボランティア活動は、行政と比較すると多くのメリット、例えば、機動性や共感性、多様性、先駆性などがあることについて以前指摘をしました。

しかし、一方でボランティア活動にも問題や課題があり、批判がよせられることもあります。

ボランティアは「自発性」「無償性」をともなう活動なので、まず、その効果や成果に関して、客観的な評価基準を設けることが極めて難しい場合があります。時としてその活動が公共性や社会的課題に届いていないこともでてきます。

その結果、「自己満足」「思い込み」「独りよがり」などと言われてしまいます。「善意が必ず善行を生むわけではない」と、厳しく指摘する人もいます。

次に、他者に対する共感力や社会を変えたいという思いが強すぎると、逆に自分の発想ややり方にこだわりを持ってしまうことがあります。その結果、組織内に対立を生み出したり、仲間割れや分裂を起こしてしまいます。

同じような活動をしている団体が複数ある場合、「協力したり合同してやったら、もっと効果があがるのではないか」と言う人もいますが、実際にはなかなかうまくいきません。それぞれの団体に「思い」があるからです。

ボランティアは機動性があるが、全体が見えていないということもよく聞かれます。その地域にとって何が必要なのか、ニーズは何かをあまり考えず、全体のバランスを崩してしまうのです。

ボランティア団体とのワークショップで「現在の課題」をテーマに議論をすると、常に出てくるのが予算の不足と後継者がいないという意見であります。

予算に関しては、「おやま～る」内に助成金案内が掲示されています。しかし、申請書類の書き方が難しいと感じられたり、活動報告書や決算書を提出するのが面倒くさいと思う団体は少なくないと思います。しかし、慣れてしまえばそんなに難しいものではありません。

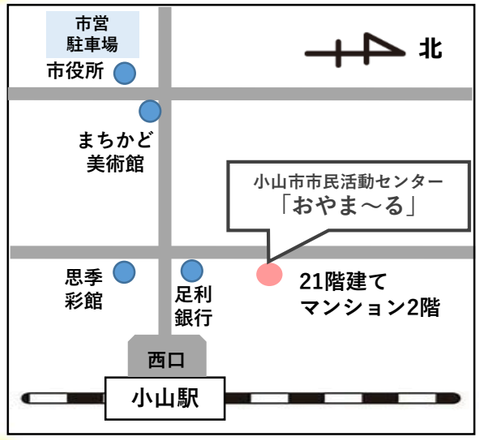
小山市にも市民活動に対する公募型助成金制度があるので、興味があるかたは是非「おやま～る」のスタッフにご相談くださいませ。また、会費や寄付に関してもお声かけをいただきたいと思います。

後継者不足の問題は、全国どこにいっても聞くテーマであります。どんなに素晴らしい活動をしてきても、それと同じことを新参入者や若者に強いると、離れていってしまうことがよくあります。彼らに責任と主体性を与え、自分たちと異なる考え方や行為を許容しないと、後継者は育ちません。ボランティアは自主的な活動だからです。

とは言っても、ボランティアを実際にされているかたは、あまり厳密に考える必要もないかもしれません。

「できる人が」「できる時に」「できることを」やるのがボランティアの基本です。そして、時には立ち止まって、自分たちの活動が、地域の課題解決につながっているか、社会に貢献しているかをふりかえり、また次の前進の一歩を踏み出していっていただきたいと思います。

（センター長　結城史隆）



小山市市民活動センター
「おやま～る」
（指定管理団体：ゆめ評定）

〒323-0025
栃木県小山市城山町3-7-5
城山・サクラ・コモンビル2階

Tel: 0285-20-5562
Mail: info@oyamaru.net
Web: https://oyamaru.net

開館時間　9：00～21：00
休館日　年末年始（12/29-1/3）

冬も終わり春の陽気に包まれ始めましたね♪
出会いと別れ、新生活。2021年度も前向きに活動していきましょう！

市民活動センターからのお知らせ

小山市市民活動センターの4月、5月の催事

オンラインコミュニケーションツール（Zoom）の使い方を一緒に学ぼう

○初級編（Zoomをはじめて使用する方）
Zoomを使って会議に参加できるようになります。

○実践編（1回以上Zoomを使用したことがある方）
Zoomを活用した会議やセミナーを自ら開催できるようになります。

日時：4/26（月）【初級編】13:30～15:00
定員：各回6名程度（申込必須・先着順）
場所：おやま～る 研修室

5/24（月）【実践編】13:30～15:00
講　師：藤本　尚彦（小山市市民活動センター）
申込み：HPの申込みフォームもしくは電話・来館
参加費：各回300円（資料代）

※ノートPC（カメラ、マイク搭載）、スマホ、タブレットをお持ちの方

SDGsって何だろ？

今年度、小山市市民活動センターはSDGsを様々な切り口で考えていこうと思っています。今回はSDGsを知っている人も知らない人も白紙の状態からSDGsを捉えることができるように、少しずつ深堀していきます。

日時：5/15（土）10:00～11:30
場所：おやま～る　研修室

講　師：結城　史隆（小山市市民活動センター）
申込み：HPの申込みフォームもしくは電話・来館

NPOパワーアップセミナー in おやま～る　「助成金と補助金の活用」

地域課題解決に向けた資金調達のひとつに、助成金や補助金の活用があります。まずは助成金等について理解を深め、その申請方法や活用について一緒に考えます。

日時：5/13（木）14:00～15:30
場所：おやま～る　研修室

講　師：古河　大輔（小山市市民活動センター）
申込み：HPの申込みフォームもしくは電話・来館

SNSはじめの一歩相談会　～安心のWebデビュー～

SNSについての基礎知識をお伝えします。相談会中に参加団体を例にどのSNSを運用するのがいいか一緒に考えます。SNSを使ったことない人やSNSを使うことが不安な人にお勧めの講座です。

日時：4/23（金）13:30～15:00
定員：4団体（各団体2名まで）（申込必須）
場所：おやま～る 研修室

講　師：宮岸　誠（小山市市民活動センター）
申込み：HPの申込みフォームもしくは電話・来館
参加費：各回300円（資料代）

災害ボランティアコーディネーター養成講座　～災害支援の「つなぎ」を考える～

災害ボランティアコーディネーターとして必要な知識や技術、判断力などを過去災害での事例などを交えて学びます。
※1/16に予定していた講座になります。1/16に予約をしていた人を優先とさせていただきます。席に空きが出た場合、追加募集をホームページでお知らせいたしますので随時チェックしてください。

日時：5/22（土）10:00～15:00 ※昼休憩あり
場所：おやま～る　研修室

講師：李　仁鉄（にいがた災害ボランティアネットワーク）
主催：おやま～る、小山市社会福祉協議会

2021年度の小山市市民活動保険に関するお知らせ

2021年度の小山市市民活動保険の申し込みを受け付けています。
2021年度の保険は5月から適用となります。4月中を目処に申請してください。

★2021年度小山市市民活動保険申込のための必要書類
●市民活動保険申請申込書（窓口またはHPから入手）
●保険適用申請される方の名簿
●2021年度の活動計画

★2020年度小山市市民活動保険申込された方は下記報告義務があります。
●2020年度分で提出された「年間計画表」にある催事ごとの活動実績報告
※計画になかった催事の実績も追加記入してください。

申請期間

2021年4月1日～

申請方法

①窓口に提出する
※メールでも受け付けています

info@oyamaru.net

教えて！あなたの団体活動！

登録団体紹介

～NPO法人　笑光（えこう）～

インタビューした方：理事長　中山 麗美さん

一人きりで食事をとる「孤食」から、みんなで楽しく食べる「共食」を目指す「笑光」。「市民交流センターゆめまち」で月２回、小中学生を対象とした「こども食堂」を開催してきた。コロナ禍の中では手作りのお弁当を無料で配布。多いときは100食も作るそうだ。食材はJA、農家さん、フードバンク等からの寄付、調理には地域の方々や学生がボランティアとして関わっている。

中山さんが「笑光」を立ち上げたのは、2017年8月のことである。子どもの「孤食」をニュースで見た時に、「子どもの時に一人でご飯を食べるのは寂しいのではないか。悲しい思いをさせたくない」と思ったことが活動のきっかけだった。

「活動の根源にあるのは地域への恩返し」という中山さん。子どもの頃から神輿を担ぎ、地域の伝統的な行事に関わってきた。神輿を担いだ後に配られるおにぎりの味が美味しかったのが、今でも忘れられないという。町内会の人たちがおにぎりを握ってくれたように、「今度は自分が地域の子どもたちのために！」と活動を続けている。

活動を支える寄付は随時受け付けている。また、無料で調理できる拠点を探している。子どもたちの笑顔のために活動を続け、「子どもが大きくなった時に地域のために行動してくれたらいいな」と話す。

中山さんとボランティアの方々

第1, 第3水曜日の午後１時から準備を始める

～ギャマノン小山～

インタビューした方：代表　よしゆきさん

「ギャマノン」はギャンブル依存症者の家族や友人のための自助グループである。全国各地で活動しており、栃木県内で４団体、小山市内で１団体が存在する。市内唯一の活動団体である「ギャマノン小山」は、2021年7月に活動10周年を迎えようとしている。

活動にはギャンブル依存症者の家族や友人が匿名で参加することができる。それぞれが抱えている問題を自由に話し、批判せずに話を聞く。話すことで自分たちの経験を分かち合い、ギャンブル依存症者に巻き込まれないよう、活路を見いだしていく。「一番お願いしたいのは助けを求めること。助けを求めてもらえれば、みんなが力になれると思う」とのこと。その他にも、依存症に対する書籍の読み合わせを実施している。正しい知識を学び、依存症者への偏見が無くなると、見え方や接し方が変わってくるという。

参加者に上下関係はなく、個人情報を明かす必要もない。話したことは外に持ち出さないので、安心して参加することができる。「困ったこと、苦しいことなど、何でも正直に吐き出せる場所なので、来てくれると嬉しいです」と話す。

毎週金曜日PM７時～９時「おやま～る」で開催。
※事前連絡なしで参加可能。

匿名で話すので安心・安全

ギャマノン発行の書籍を読み合わせる様子

当内容は、小山市市民活動センター「おやま～る」のWebサイトにも掲載しています。
ここには書いていない魅力も掲載していますので、是非ご覧ください！
https://oyamaru.net/dantaishoukai